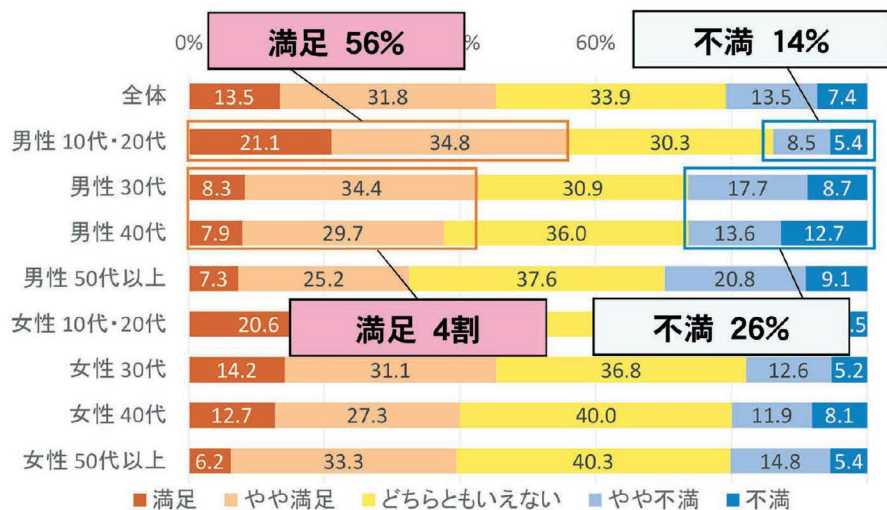


●性・年代別パチスロ満足状況(現行ユーザー)

男性10、20代は満足が高く、不満が低い。
男性30、40代は、全体と比べて満足が低く、不満が高い。



考察 男性10、20代は5号機から始めた世代なので満足している。現状のパチスロでも離反の可能性は低い。一方、男性30、40代は4号機も経験している世代で、不満を持ちながら仕方なく遊技していると思われる。不満要素を排除しないと離反の可能性が高い

パチスロユーザー調査 日工組 日電協

10、20代は満足度高い
離反しやすい30、40代

日遊協の「2015年ファンアンケート調査」に付随して、日電協、日工組が昨年11、12月に行った

「パチスロユーザー調査」報告書がまとまり、このほど公表された。調査はWEBアンケートの無作為方式で全都道府県8万人を対象にスクリーニング調査を実施、それを基にした本調査では現行パチスロユーザー11648サンプル、休止ユーザー1805サンプルを対象に調査した。

調査の背景として、①パチスロ参加人口の減少が続く ②現行ユーザーの離反が続く ③休止ユーザーを呼び戻せる要素が少ない ④魅力を感じて参加してくる新規プレイヤーが少ない ⑤打開策を模索する方向性が明確でない ⑥メーカーごとの思いが業界内外に響いていない——等が挙げられている。調査結果の要点は次の通り。

浮かび上がる課題

▼30、40代の不満要素「金かかる」「勝てない」

業界を支えるボリュームゾーンだが、最も離反しやすい世代でもある。一度離反すると再開は極めて困難であり、離反防止に着目し、不満要素の改善が求められる。不満の大きな原因は、「お金がかかる」「勝ちにくい」であり、この対策は必須。しかし、単純にお金がかからない遊技機を提供するだけでは、離反防止につながらない。新規ゲーム性という視点も必要。

▼若年層(10、20代)への訴求きつかけあれば可能

パチスロの開始年齢は20代までが6割を占め、30代以降には激減する。10、20代で遊技を始めないとずっと参加しない可能性が高い。

課題に対する対策

▼30、40代の不満要素の改善(現行ユーザーの離反防止)

出玉感のARTタイプ
対策①「お金がかからない」「勝ちやすい」遊技機の提供↓当たりが近い+一定の出玉感+勝率が安定したARTタイプ。
対策②「新規ゲーム性の提供↓不満要素の改善に直結するかは分析がもう少し必要。

▼若年層(10、20代)ユーザーの獲得

シンプルなる入門機
対策③「誘いやすい」と感じる遊技機の提供↓人気コンテンツ+低予算+当たりが近い+シンプルなる入門機。
番外…ホール環境の改善↓たばこ、騒音の改善。

総括

高射幸性がネックに

遊技人口の低下については、余暇の多様化、国民生活や価値観の変化等、間接的な要因も大きいですが、加えて今のパチスロが「お金がかかる」「勝ちにくい」遊びに変化し

てきたのが直接的な要因として浮き彫りになった。

しかし、今回の調査だけでは遊技性能を検討・実現するのには具休性に欠ける部分が残る。「大当たりするまでの時間と予算」「大当たり中の時間と獲得出玉」などかどのようなバランスが適切かまで

難民を助ける会から日遊協に感謝状

NPO法人難民を助ける会（長有紀枝理事長）は5月17日、同会の熊本地震緊急支援活動に送られ

は導き出せていない。今後も継続的に調査を実施することでデー

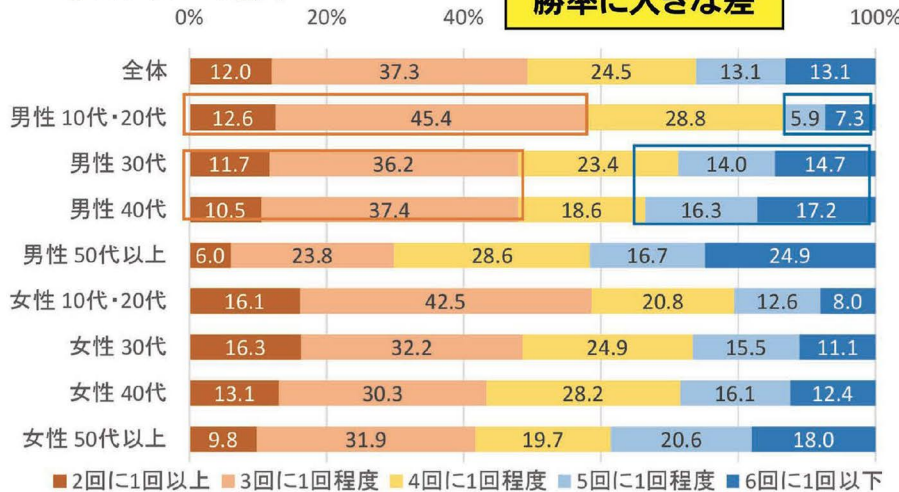
タを蓄積し、課題を一つずつ解決していくことが重要と考える。

1日の平均使用額は1万5100円。男性30代は1万7400円、40代は1万8800円と他の年代より高い。とくに平日はもっと低額で遊びたいと答えている。また、勝率では男性10、20代と比べて低い。

●パチスロの使用金額と希望金額の比較

(単位:円)	1日の使用金額	平日の希望金額		休日の希望金額	
		平均額	1日の使用金額との差額	平均額	1日の使用金額との差額
		全体	15,100	14,900	-200
男性 10代・20代	15,300	16,100	800	20,000	4,700
男性 30代	17,400	14,200	-3,200	20,200	2,800
男性 40代	18,800	17,300	-1,500	23,600	4,800
男性 50代以上	14,000	13,600	-400	17,800	3,800
女性 10代・20代	12,400	14,600	2,200	18,700	6,300
女性 30代	13,300	14,300	1,000	16,900	3,600
女性 40代	12,600	14,500	1,900	17,600	5,000
女性 50代以上	12,400	11,400	-1,000	14,400	2,000

●パチスロの勝率



●考察 平日の仕事の後に、比較的低予算でも一定の勝率が得られる遊技機の提供が必要



庄司会長に感謝状を手渡す難民を助ける会・堀江専務理事(左)

た日遊協からの寄付に対し、日遊協に感謝状を贈った。

日遊協では熊本地震に際し、九州支部独自の支援活動に加えて、本部として熊本県「熊本地震災義援金」に150万円の寄付をしたほか、難民を助ける会に対してはボランティア団体支援の名目で日遊協ボランティア団体応援基金から50万円を寄付した。

贈呈式では同会の堀江良彰専務理事・事務局長が日遊協を訪れ、庄司会長に感謝状を手渡した。

6団体が総会開く

日工組

「回収撤去」の推進決議

「くぎ」と「高射幸性機」で

日本遊技機工業組合（日工組）は5月23日、東京・千代田区のグラウンドアーク半蔵門で通常総会を開き、平成27年度事業報告書及び決算関係書類を承認した。28年度事業計画では「遊技くぎ」に係る回収対象遊技機を速やかに回収し、適正な遊技機入れ替えに努める」「高射幸性遊技機の回収を促進する」など12項目の重点課題を掲げ、承認した。

最後に、「社会と共生する産業として業界改革をさらに推し進め、『身近で手軽な大衆娯楽』を提供し、新たな遊技環境を構築する」として、次のような5項目の決議を採択した。

- 一、遊技機の製造管理を徹底し、新たな遊技環境に対応する安心して使用できる遊技機の提供に努めよう
- 二、新たな流通制度において取り決めた要綱、規定等の適正な運用に努めよう
- 三、大衆娯楽として広く、手軽に安心して楽しめる多種

多様な低射幸性遊技機の開発・製造に努めよう

四、業界の将来を見据えた新たな遊技機の実現に向けての施策を推進しよう

五、風営法等関係法令の遵守徹底を図り、自覚と責任を持って業界の健全化に努めよう

回胴遊商

3項目の活動目標

回胴式遊技機商業協同組合（回胴遊商）は5月24日、東京・後楽園の東京ドームホテルで通常総代会を開き、平成27年度事業報告及び決算、28年度事業計画及び収支予算等を承認した。

28年度の活動目標として、①法令を遵守し、健全な遊技機流通と犯罪防止を目的とした遊技機の適正な処理を目指す ②地域に根差した支部活動の推進と信頼される地域貢献を目指す ③新たな時代に適応し組合員が希望もてる業界構築を目指す——3項目を掲げた。

自工会

二人の新副理事長

一般社団法人遊技場自動サービ

ス機工業会（自工会）は5月19日、東京・新橋の第一ホテル東京で定時総会を開き、平成27年度事業経過報告・収支決算報告と、28年度事業計画案・収支予算案を承認した。

副理事長人事で栢森秀行、吉村泰彦両氏の退任に伴い、木原茂成（大都販売株）、井寄義孝（グローリーナスカ株）両氏が新任された。

同友会

5重点項目を承認

一般社団法人日本遊技産業経営者同友会（同友会）は5月18日、東京・上野のオーラムで定時社員総会を開き、平成27年度事業報告及び決算報告案と28年度事業計画及び収支予算案を承認した。

28年度事業の重点項目として、「業界の健全化実現のための取り組みを強化する」など5つを承認した。

余暇進

「業法制定」など目標

一般社団法人余暇環境整備推進協議会（余暇進）は5月17日、東京・港区のホテルインターコンチネンタル東京ベイで定時社員総会を開き、平成27年度事業報告及び

決算報告と、「業法制定に向けて研究・活動する」など5項目の具体的な行動目標を掲げた28年度事業計画及び収支予算を承認した。

健全化推進機構

1664店舗で検査

2万749の遊技台

一般社団法人遊技産業健全化推進機構（五木田彬代表理事）は5月12日定例理事会を開き、定時社員総会（6月13日）に上程する第10期事業年度計算書類承認の件を審議した。

昨年度の遊技機と計数機の立入検査結果が報告された。目標数2000店舗に対して、遊技機検査で1379店舗、計数機検査で285店舗の計1664店舗の実績だった。店舗数が目標に達さなかったのは、昨年6月からの遊技機性能調査に人手が割かれたため。遊技機性能調査は今年3月末までの10か月間に700超の店舗で行われ、この数字を含めると目標店舗数をクリアしたとしている。

立入検査の内訳はパチンコ機9855台、回胴式1万894台、計2万749台。計数機は玉204台、メダル82台、計286台だった。

遊技機委員会

5月17日
本部会議室
出席委員等27人

「若者への訴求」は成功 2階建て工夫必要

「ニコニコ超会議」（4月29、30日）に出席した日遊協ブース「超パチンコ&パチスロフェスタ2016」の総括を話し合った。

この時点での中間総括としては、
①協賛・協力企業、協力団体、応援スタッフの協力により、昨年以上のPRができたこと、来場者には昨年よりもしつかりと遊技してもらい、6割以上の来場者が満足されたことなどから成功であったと考えられる ②昨年、他のブースより見劣りしていたという課題は、装飾関係に予算を充てることで改善できた ③初のホール企業の協賛については、ユニフォームコレクションやロゴの掲載等で一定の露出を行うことができ、次回はさらに多くの企業に呼びかけたい ④ニコニコ超会議はわが国の展示会の中で来場者数が上位に位置し、比較的若い層が集まるので若年層や未経験者へのアプローチに最適なイベントであり、来年もブースを出展して効果的な業界PRと業界活



フェスタ2016の総括などを話し合った遊技機委員会

性化の一助としたい——などとなっている。

このほかに、「2階建て構造は見栄えが良かったが、2階部分是不安定な感じがした。次回も2階建てなら、建て方を考えるべき」「来場者への告知パネルが小さくて見づらかった」「スタッフにもう少し女性が多いと、雰囲気をもっと良くなったと思う」などの意見があった。また、来場者の属性等をアンケートの中間集計から推計すると、「全体の年代構成は10〜20代が5

割、30代が3割、40代以上が2割」「ミドルユーザーの割合が増えている」「未経験者は比較的若い人が多く、休止者は年齢の高い人が多い」「遊技経験のある人ほど満足度が高くなる傾向がある」となっている。今後、「ちよいパチ」へのアンケート結果を含めて、6月中旬に正式な総括をまとめる。

広報調査委員会

5月24日
本部会議室
出席委員等13人

今後の在り方を協議

ファンメディア連絡会

ファン雑誌・WEBメディアと広報調査委員会が意見を交換する「ファンメディア連絡会」の今後の在り方について協議した。昨年度は2回（昨年8・9月、今年2月）開かれ、それまであまり接点がなかったファンメディアと日遊協とが、情報交換と相互理解に努めるなどの成果を上げた。

今後は、日遊協からメディアへの要望、メディアから日遊協への要望をそれぞれ出し合い、単独ではできない課題を相手の「強み」を使って実現、業界発展に寄与するという考え方が示された。

具体的には、事前に相互の要望事項を通知し合い、1回目の連絡会を開いて直接意見交換する。そのあと双方は持ち帰った相手の意見を検討して回答を出し、2回目の連絡会で相互が回答を伝え合い、さらに新たな要望を出し合って意見交換していく——というサイクルを各年度で繰り返していく。ファンメディア側にもこの考え方を打診していく。当面は7、8月ごろを第1回連絡会に予定して進めていくことを確認した。

ファンアンケート調査を今年度も実施する方針を確認した。昨年は10月中旬〜11月上旬に行われ、日遊協会員企業のホール、都遊協青年部、九遊連青年部の協力で行われた。

人材育成委員会

5月26日
日本橋三洋グループビル
出席委員等12人

「女性フォーラム」の最終確認

本年度第1回「女性活躍推進フォーラム」の開催に先立って開かれ、フォーラムの参加者、スケジュール、担当等について最後の確認を行った。（4ページに「女性活躍推進フォーラム」）

27項目の「依存尺度」発表

該当者を正確に調査・把握へ

公益財団法人日工組社会安全研究財団(社安研)の「パチンコ依存問題研究会」は、パチンコ・パチスロ遊技障害(いわゆるパチンコ・パチスロ依存)の尺度「PPDS (Pachinko-pachislot Playing Disorder Scale)」をこのほど完成させ、この尺度にかかる研究論文が精神医学領域の学術誌『精神医学』(医学書院)4月号に掲載された。社安研では今後、この尺度により依存該当者数の推定や関連要因の検討など様々な分析を行い、パチンコ・パチスロ遊技障害研究を促進したいとしている。

精神科医、研究者の9氏

この論文は「パチンコ・パチスロ遊技障害尺度の作成および信頼性・妥当性の検討」のタイトルで、著者は秋山久美子(社安研・非常勤)、祥雲暁代(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)、坂元章(同大学基幹研究院人間科学

系)、河本泰信(国立病院機構久里浜医療センター)、佐藤拓(成瀬メソタルクリニック)、西村直之(ぱちんこ依存問題相談機関リカバリサポート・ネットワーク)、篠原菊紀(諏訪東京理科大学)、石田仁(社安研)、牧野暢男(日本女子大学)の9氏。

研究の遅れ打破のため

論文は、パチンコ・パチスロ遊技障害が、わが国のギャンブル依存(中でもきわめて多くを占めることを踏まえ、それに特化した方策を検討・実施することはわが国のギャンブルング障害対策における重要な課

題であるとしている。また、同論文は、パチンコ・パチスロ遊技障害の研究が乏しく、取り組みが遅れており、現状打破の1方法としてパチンコ・パチスロ遊技障害を測定するための尺度を開発したと述べている。

12のカテゴリーに分け

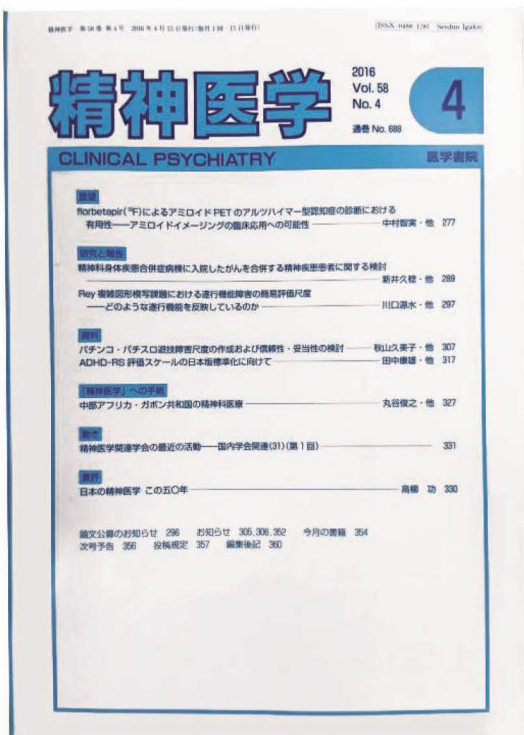
尺度の開発では、多様な感情や行動について理論的・経験的知見を総合的に踏まえて予備調査が行われ、SOGS(H・ルシユールとS・ブルームがギャンブルング障害診断のために開発した質問票)など既存のギャンブルング障害尺度の項目を参考に、まず15のカテゴリーによる124項目を作成し、WEB調査を繰り返して修

高い信頼性と妥当性

その後、1年以内にパチンコ・パチスロ経験のある522人を対象にPPDSを使った本調査が行われ、SOGSなど既存のギャンブル依存尺度と比較した結果、PPDSに信頼性と妥当性が得られ、さらに学術誌『精神医学』掲載のための査読をパスした。社安研では今後「遊技障害該当者」と判定する点数(しきい値)を検討していく。また、尺度の構造を保ちながら、質問項目をより少なくする短縮版の開発も行うとしている。

既存のギャンブルング障害の尺度

としては、SOGSのほかにDSM、NODS、PGSI、G-SASなどがある。また、パチンコ・パチスロ遊技障害に特化した



論文が掲載された『精神医学』4月号

パチンコ・パチスロ遊技障害尺度の項目 (カッコ内はカテゴリー)

動機	
1	私はパチンコ・パチスロのことがいつも気になって仕方がない (思考のとらわれと欲求)
2	パチンコ・パチスロのことが頭に浮かぶと、私はパチンコ・パチスロをやらずには済まされなくなる (思考のとらわれと欲求)
3	パチンコ・パチスロをしている間だけは、私は気分が落ち着いている (逃避)
4	パチンコ・パチスロをしている間、私はほかのことを何も考えないで済んでいる (逃避)
5	パチンコ・パチスロは、ストレスから逃れるために私にとってなくてはならないものだ (逃避)
行動	
6	私はもっと多くのお金を得たいと思うあまりに、パチンコ・パチスロに使う金額が増えてきた (耐性)
7	パチンコ・パチスロで負けても以前ほどは不安や後悔を感じなくなったために、私はよりいっそうパチンコ・パチスロに時間やお金を費やすようになった (耐性)
8	パチンコ・パチスロをする回数や時間を減らしたら、私は気持ちが落ち着かなくなった (離脱症状)
9	パチンコ・パチスロをやめようとしたら、私は仕事や家事や勉強などが手につかなくなった (離脱症状)
10	私はパチンコ・パチスロで負けた時、負けた分を取り返すために、その日のうちまたは翌日にパチンコ・パチスロをしにいったことがある (深追いと自己制御困難)
11	私は1日に予定よりもはるかに多くの金額をパチンコ・パチスロに使ったことがある (深追いと自己制御困難)
結果	
12	パチンコ・パチスロをすることで、治療中の私自身のからだの病気が悪くなった (健康問題)
13	パチンコ・パチスロをすることで、治療中の自分自身のこころの病気が悪くなった (健康問題)
14	私がパチンコ・パチスロをすることで生じた問題について、家族や周りの人に迷惑をかけて申し訳ないと感じたことがある (罪悪感・羞恥心)
15	パチンコ・パチスロをすることに、私は罪悪感を覚えることがある (罪悪感・羞恥心)
16	パチンコ・パチスロをすることで生じた私自身の問題を考えると、私は人に対してきまり悪さや恥ずかしさを感じたことがある (罪悪感・羞恥心)
17	私自身のパチンコ・パチスロによる負けや借金を隠すために、嘘をついたことがある (嘘・隠し事)
18	私は家族、友人、同僚などに嘘をついて、パチンコ・パチスロをしたことがある (嘘・隠し事)
19	私はパチンコ・パチスロをすることによって、経済的困難におちいり、お金を出してくれるよう人に頼ったことがある (経済的問題)
20	パチンコ・パチスロをするために、私は人からお金を借りたことがある (経済的問題)
21	あなたはパチンコ・パチスロをするために、またはパチンコ・パチスロによる借金を返すために、以下のところからお金を借りたことがありますか (1.家族または家計 2.友人または知人 3.銀行 4.ローン会社 5.サラ金 6.ヤミ金 7.その他 8.借りたことはない) (経済的問題)
22	私はパチンコ・パチスロをすることによって、教育を受ける機会を失いそうになったり、または失ったことがある (学業・仕事)
23	私はパチンコ・パチスロをすることによって、仕事で失敗したり、職を失いそうになったことがある (学業・仕事)
24	私は自分のパチンコやパチスロのことで、悩んで自殺をはかったことがある (自殺)
25	私は自分のパチンコ・パチスロの問題で悩んだ末、みずから命を絶とうと思ったことがある (自殺)
26	パチンコ・パチスロをすることで、家族や恋人との関係が破たんしそうになった、あるいは破たんしたことがある (重要な人との関係)
27	パチンコ・パチスロに関する自分のお金の使い方をめぐって、同居している人と口論になったことがある (重要な人との関係)

チェック方法としては、昨年パチンコ・パチスロ産業21世紀会が制定した「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」の運用マニュアルの中に、ユ

ーザーや従業員向けの簡便な自己診断表が掲載されているが、これはアメリカ精神医学会の『精神疾患の診断・統計マニュアル』第5版（DSM-5）を参考に作成さ

れている。
日本人のギャンブルینگ障害の数字としては、2014年8月に厚労省科研費による研究で、「成人人口の4・8%に当たる536万

人が依存症」という結果が出ている。これは他国に比べて異常に高い数値であり、この点について社安研の今後の調査研究の推移が注目される。